

# 定期作況報告

平成21年10月  
(10月20日現在)

北海道立北見農業試験場

# 1. 気象経過

9月下旬：最高気温は平年と比較してやや高く、最低気温は平年並み、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年より少なかった(平年比13%)。日照時間は平年よりやや多かった(平年比134%)。

10月上旬：最高気温は平年並、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年並みであった。降水量は、10月8～9日にかけての台風18号接近の影響で、平年より極めて多かった(平年比200%)。日照時間は平年並みであった(平年比115%)。

10月中旬：最高気温、最低気温、平均気温は平年並みであった。降水量は平年並みであった(平年比91%)。日照時間は平年よりやや少なかった(平年比78%)。

以上のことから、この1か月間(9月下旬～10月中旬)は、気温は平年並み、降水量は平年よりやや多く、日照時間は平年並みであった。

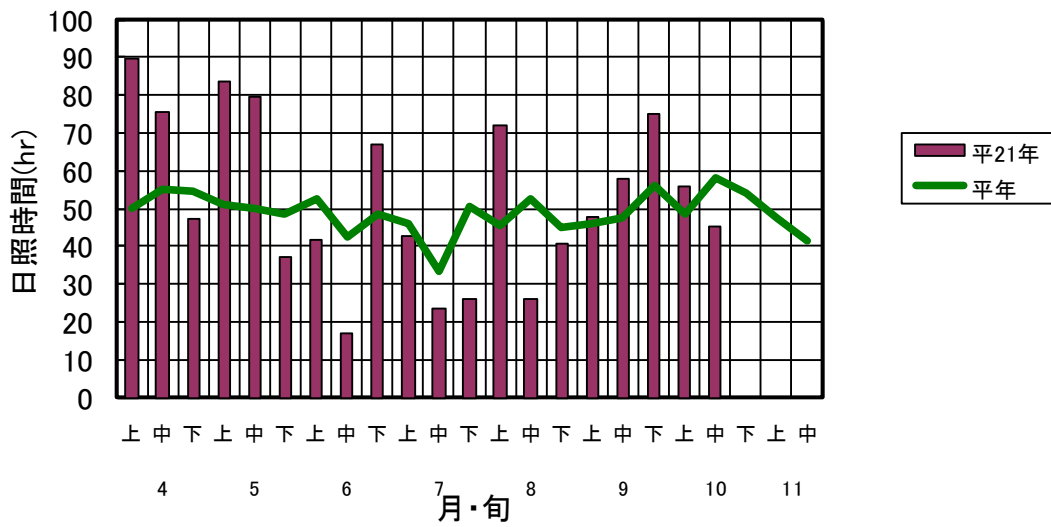
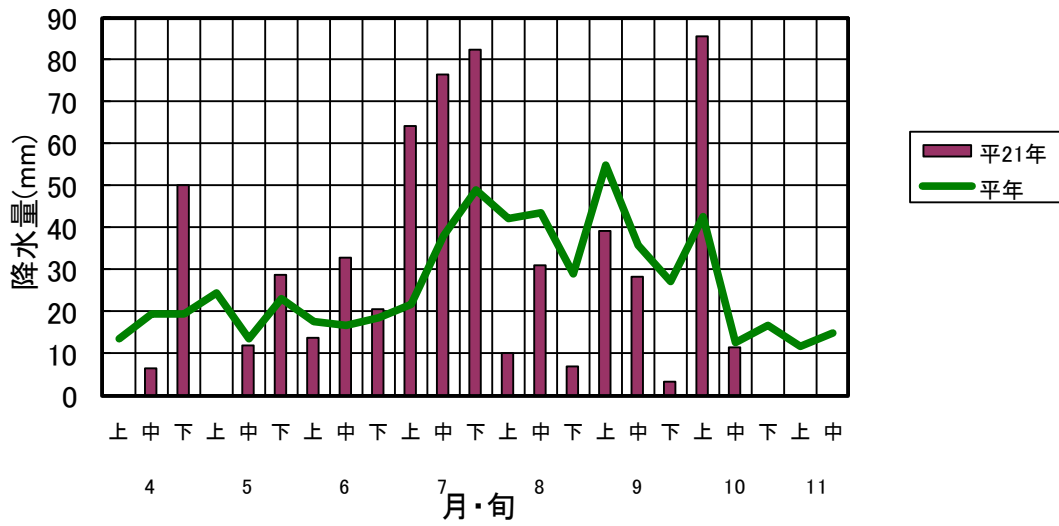
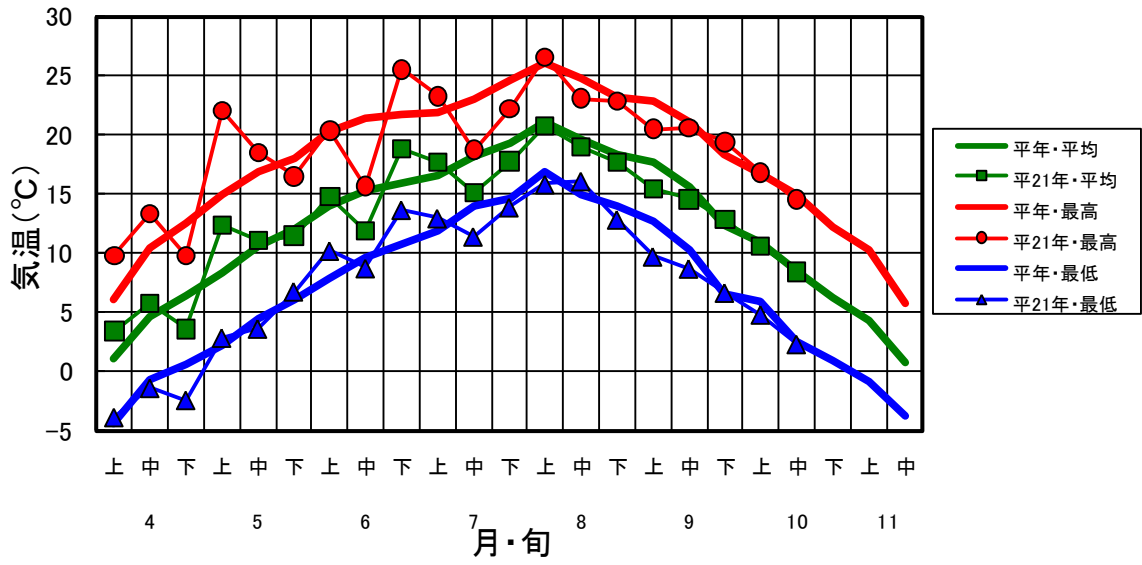
注) 降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の平均値に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

気象表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
9月下旬	13.0	12.4	0.6	19.5	18.3	1.2	6.7	6.7	0.0
10月上旬	10.7	10.9	△ 0.2	16.9	16.8	0.1	4.9	5.9	△ 1.0
10月中旬	8.5	8.5	0.0	14.6	14.9	△ 0.3	2.4	2.5	△ 0.1

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
9月下旬	3.5	27.3	△ 23.8	75.0	56.1	18.9
10月上旬	85.5	42.7	42.8	55.7	48.3	7.4
10月中旬	11.5	12.6	△ 1.1	45.1	58.1	△ 13.0

注) 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。  
2) 平年値は前10か年間の平均である。



## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

### 1) とうもろこし(サイレージ用) 作況: やや不良

事由: 収穫期は平年より4日遅い9月25日であった。収穫時の子実の熟度は黄熟初期と、平年より登熟がやや遅れ、また総体の乾物率は平年より低かった。特に乾物雌穂重が平年より少なく、乾物総重は平年対比94%、推定TDN収量は平年対比92%といずれも平年を下回った。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
収穫期 (月.日)	9.25	9.21	4
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初～中期	-
稈長(cm) (9月20日)	280	264	16
生総重(kg/10a)	6720	6598	122
乾物茎葉重(kg/10a)	1001	923	78
乾物雌穂重(kg/10a)	831	1016	△185
乾物総重(kg/10a)	1832	1939	△107
同上平年比(%)	94	100	△6
推定TDN収量(kg/10a)	1289	1400	△111
同上平年比(%)	92	100	△8
総体の乾物率(%)	27.3	29.6	△2.3
乾雌穂重割合(%)	45.4	52.4	△7.0
有効雌穂割合(%)	100.0	100.0	0.0

注) 平年値は前5か年の平均(供試品種を変更したため)。

## 2) 大豆

作 況：不良

事 由：成熟期は平年より2～4日遅く、「トヨコマチ」が9月30日、「ユキホマレ」が10月1日であった。両品種とも、着莢数が平年より6～8%少なかったものの、百粒重は平年を4～5%上回った。子実重は「トヨコマチ」で平年対比87%、「ユキホマレ」で82%と大きく下回った。したがって、目下の作況は「不良」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月・日)	9.30	9.26	4	10.1	9.29	2
主茎長(cm) (成熟期)	64.3	62.6	1.7	56.3	62.1	△ 5.8
主茎節数 (成熟期)	11.1	11.4	△ 0.3	10.4	11.2	△ 0.8
分枝数(本/株) (成熟期)	4.7	5.5	△ 0.8	4.5	5.0	△ 0.5
着莢数(個/株) (成熟期)	57.5	62.7	△ 5.2	63.9	68.2	△ 4.3
子実重(kg/10a)	305	349	△ 44	306	373	△ 67
同上平年比(%)	87	100	△ 13	82	100	△ 18
百粒重(g)	35.7	33.9	1.8	35.4	34.2	1.2
屑粒率(%)	0.5	1.7	△ 1.2	0.2	1.7	△ 1.5

注1) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

### 3) 小豆

作況：良

事由：成熟期は、「サホロショウズ」が平年より11日遅い9月30日、「エリモショウズ」が5日遅い10月5日であった。両品種共に、着莢数は平年を9～10%下回った。しかし、9月下旬から10月上旬の気温が平年並～やや高く、日照時間も平年並～やや多かったことから、登熟期間が確保され、粒は著しく肥大した。その結果、百粒重が平年を25～27%上回り、子実重は平年を9～11%上回った。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月・日)	9.30	9.19	11	10.5	9.30	5
主茎長 (cm) (成熟期)	62.5	59.7	2.8	53.6	68.0	△ 14.4
主茎節数 (成熟期)	12.0	12.1	△ 0.1	12.6	13.9	△ 1.3
分枝数 (本/株) (成熟期)	3.5	4.3	△ 0.8	2.5	4.5	△ 2.0
着莢数 (個/株) (成熟期)	50.5	55.8	△ 5.3	47.4	52.6	△ 5.2
子実重 (kg/10a)	423	388	35	480	432	48
同上平年比 (%)	109	100	9	111	100	11
百粒重 (g)	19.3	15.2	4.1	18.7	15.0	3.7
屑粒率 (%)	2.2	3.0	△ 0.8	4.8	2.7	2.1

注1) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

### 4) 菜豆

作況：やや良

事由：両品種共に、着莢数は平年並～やや下回ったが、百粒重は平年を上回った。子実重は、「大正金時」で平年対比7%、「福勝」で8%上回った。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
着莢数 (個/株) (成熟期)	17.7	20.2	△ 2.5	18.2	18.7	△ 0.5
子実重 (kg/10a)	358	336	22	409	379	30
同上平年比 (%)	107	100	7	108	100	8
百粒重 (g)	76.2	75.0	1.2	95.2	91.3	3.9
屑粒率 (%)	2.0	5.3	△ 3.3	1.7	5.2	△ 3.5

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

## 7) ばれいしょ

作 況：やや不良

事 由：「コナフブキ」の枯凋期は、平年より9日早い9月28日であった。生育期間が短かったことから上いも重は平年を下回った。また、7月の多雨以降、長期にわたり土壌が湿潤な状態であった影響を受けて、でん粉価も低かった。このため、でん粉重は平年を下回った。

以上のことから、前報の「男爵薯」と併せ、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	コナフブキ		
	本年	平年	比較
枯凋期 (月.日)	9.28	10.7	△ 9
上いも数(個/株)	11.2	9.5	1.7
上いも1個重(g)	94	115	△ 21
上いも重(kg/10a)	4658	4873	△ 215
同上平年比 (%)	96	100	△ 4
でん粉価(%)	20.7	22.6	△ 1.9
でん粉重(kg/10a)	902	1052	△ 150
同上平年比 (%)	86	100	△ 14

注) 平年値は前7か年中、平成15(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

## 6) てんさい

作 況：やや良

事 由：収穫は平年並の10月20日に行った。9月下旬以降、気温は平年並で降水量はやや多かったため、移植栽培の根重はほぼ平年並に回復した。しかし、直播栽培では平年を下回ったままであった。根中糖分は、気温の日較差が大きかったため、平年を大きく上回った。移植栽培の根重は2品種平均で平年対比102%、根中糖分は108%、糖量は109%、直播栽培の根重は平年対比93%、根中糖分は109%、糖量は平年比102%である。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (10月20日)	4412	6297	△1885	4811	6345	△1534	4181	5919	△1738
根重 (kg/10a) (10月20日)	6891	6648	243	7073	7065	8	5392	5775	△383
根中糖分 (%) (10月20日)	18.64	17.40	1.24	19.26	17.73	1.53	18.84	17.32	1.52
糖量 (kg/10a) (10月20日)	1284	1155	129	1362	1264	98	1016	999	17

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。



## 7) 牧草(チモシー)

作況:不良

事由:3番草の収穫は平年より4日早い10月1日に行った。3番草は、草丈がやや低く、生草収量は少なかったが、乾物率が高かったため、乾物収量は平年対比114%と多かった。しかし、1～3番草の合計乾物収量は平年対比81%と平年を大きく下回った。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	3番草	10.1	10.5	△4
病害罹病程度	3番草	4.0	4.4	△0.4
草丈(cm)	3番草	42	47	△5
生草収量(kg/10a)	3番草	505	634	△129
	1～3番草合計	3296	4338	△1042
乾物率(%)	3番草	36.8	27.4	9.4
乾物収量(kg/10a)	3番草	186	163	23
	1～3番草合計	839	1038	△199
同上平年比(%)	3番草	114	100	14
	1～3番草合計	81	100	△19

注1) 平年値は前7か年中、平成16年(最豊)、平成19年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 病害罹病程度は、1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。